

課題名

チロキロアザミウマに対する各種薬剤の防除効果

概要
結果の約

チロキロアザミウマに対してオルトラン水和剤、ミカントップ乳剤の他に2~3種の殺虫剤が、殺菌剤ではジマンダイセン水和剤の他にMダイファー水和剤やラビライト水和剤の被害防止効果が高かった。

第1表 試験区の構成

供試薬剤	散 布 月 日			
	6月21日	7月8日	8月8日	9月9日
① ミカントップ乳剤	ミカントップ 1,000倍 ダイセン 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	ミカントップ 1,000倍 ダイセン 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200) ダニカット 1,000	ミカントップ 1,000倍 ダイセン 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	ミカントップ 1,000倍 ダイセン 500 オサダン 8,000
② ラビライト水和剤	ラビライト 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	ラビライト 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200) ダニカット 1,000	ラビライト 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	ラビライト 500 オサダン 8,000
③ エムダイファー水和剤	エムダイファー 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	エムダイファー 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200) ダニカット 1,000	エムダイファー 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	エムダイファー 500 オサダン 8,000
4 無 処 理	ダイセン 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	ダイセン 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200) ダニカット 1,000	ダイセン 500 コサイド 2,000 (クレフノン 200)	ダイセン 500 オサダン 8,000

試験場所 長崎県南高来郡延津佐町
供試品種、樹令 福原オレンジ 16年生

第2表 果実被害の発生程度

供試薬剤	調査 果数	被 害 程 度				被害 果率	被害度
		軽	中	重	甚		
① ミカントップ乳剤	502	372	126	0.4	0	26.0%	4.6
② ラビライト水和剤	502	390	172	0	0	34.2	5.7
③ エムダイファー水和剤	500	342	156	0.2	0	31.6	5.4
4 無 処 理	524	186	228	4.2	1.8	74.2	17.9

注) 被害程度は果梗部リングと果頂部傷のみ

第3表 果実寄生幼成虫数及びマキ新梢における寄生虫数

採集月日	オレンジ果実(50果)				マキ (20新梢)
	①区	②区	③区	④区	
6月21日	0頭	0頭	0頭	1頭	—頭
7月1日	1	0	1	3	—
7月8日	0	0	0	1	—
8月1日	0	5	1	3	24
8月4日	1	4	2	3	29
8月18日	0	6	1	3	64
9月9日	2	20	11	13	105
9月22日	0	5	0	4	23

(長崎果試)

成

績

概

要

普及上の留意点

前期の被害については黒点病と同時防除できる殺菌剤を使用し、後期被害に対してはオルトラ
ン水和剤、ミカントップ乳剤を使用する体系が合理的である。